

中野方町 山田 大助



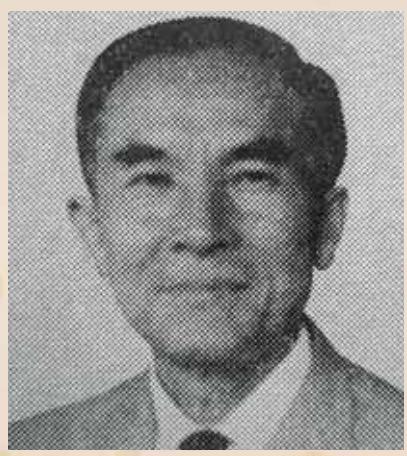
1856年～1919年

明治五年に学制が発布されると中野方村ではいち早く準備を整え、翌年三月に小学校を創立し、校名を「訓蒙舎」と名づけた。そして、同年七月には「正倫義校」と改めた。

大助は中野方村の医師山田玄（げん）堂の二男として生まれ、大変聰明で元気な少年であった。幼少の頃から父に付き、漢学を修め、向学心から大垣師範研修学校に進み、明治七年、学業を終えて、郷里の正倫義校に着任し、教鞭（きょうべん）を執り二十七年

余り奉職した。その間、度々岐阜師範学校に学び、新しい知識を身に付け、教授法やその他の教育改善に努めた。開校当初の学習法は、座机に向かって座らせ、児童を面前に呼び出して教えたが、その方式をやめ、机と椅子式にして一斉授業で指導する方法を取り入れた。しかし、当時はまだ一般に向学心は低調で、就学率も三%に満たなかつた。

明治十七年、中野方・蛭川・毛呂（けいろう）窪・姫栗・高山の五カ村の小学校巡回訓導となり、教育の改善、学校の整備などに心血を注いだ。実に責任感の強い教育者であった。明治十六年、文部省から教育功労で表彰された。中野方村では、大助の功績を称え、昭和十五年、中野方小学校校門前に顕彰碑を建立した。



1905年～1996年

赳夫は中野方の原始時代から

中野方町 安江 趙夫

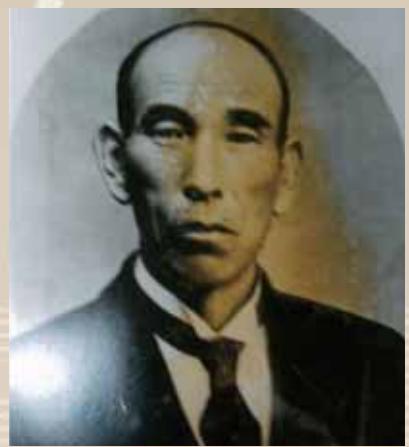
現代に至る流れを明らかにしようとして、最初に手がけたことは、中野方盆地で収集された土器や石器をもとに、遺跡を探査することだった。

その結果、三十餘の遺跡の発見と多くの石器・土器類を集めることができた。なかでも長根遺跡から出土したモミ痕（あと）のある土器や二枚貝の化石は貴重なものである。

赳夫は、大変賢く歴史が好きな少年だった。大正十二年、中野方小学校に着任、昭和二十一年まで熱心に地元の学校で教鞭を執ってきた。その間、いろいろな歴史書に親しみ、余暇には外出をして、各地域で収集された石器や土器などに接してきた。特に山本栄一の著書『恵那郡ノ石器時代』や収集物に刺激された。中野方村では、大助の功績は必ず参加した。その席で大学教授澄田正一や児玉幸多と知り合った。その後、間柄となつた。収集した資料から、村の概要を把握し、両教授の考えを聞きながら村の歩みを『生きている村』『中野方川流域考古図録』にまとめ上げ立派な業績を残した。

教育・耕地整理に貢献

飯地町 繁 繁 今次郎



1887年～1964年

今次郎は教育のみならず、農業にも深く関心を持っていた。飯地では農地での生産性が低く、年間米が四百石不足し、自給できなかつた。そのため、村民の生活安定には食糧の増産が必要課題であつた。

そこで、同村唯一の穀倉地帯沖田

おきた

の耕地整理の必要性を説明する

大正十三年、飯地尋常高等小学校長に着任した今次郎は、児童や青少年の教育に力を注いだ。現職教員を師範学校に送り、教育指導法などを学ばせ教育力を高めた。昭和十一年には、村のあゆみを調査研究して『飯地村誌』を刊行した。

また、昭和二十七年には高等教育が地元で受けられるようにと、思いを共有する仲間と手を携え「西恵水田面積二十町歩余りが整備され、収穫も倍増した。村長今次郎

せいけい

の取り組みの姿勢に学ぶべき事柄が多い。

初代学院長に就任し、青少年教育に尽力した。

保健活動の功労者

飯地町 安藤 ちゑ



1910年～1995年

た。そのような状況から保健医療に力を貸してほしいという要請を再三受け、思案の末に帰郷し、昭和十六年十一月に産婆を開業した。

翌年一月には独学で保健婦試験に合格した。この時期に村は国民

保険組合を設立し、ちゑを改めて

県衛生部駐在保健婦として迎え入れた。当時、お産は家庭出産で

かに成長していった。大変な頑張り屋でどんな苦難に遭遇しても耐え抜く意志の強い少女であつた。

大正十五年、小学校を卒業し、

東京の品海病院に勤務、そのかた

の訪問は難儀であった。この徒步で

くが、複雑な地形の山道の徒步で

の助産活動も、その後知人から馬を手に入れ、昭和十八年以降は馬

に乗つて往診を続けた。

開業以来一千九人の出産を手がけ、平成五年には勲六等宝冠章を受賞し、住民の厚い信望を集めた。

その頃、飯地村は日中戦争で医

師を亡くし、無医村になってしまった。

岩村・大井間に電車を敷設

岩村町 浅見与右衛門



1843年～1924年

九代目浅見与右衛門は幕末から明治にかけて岩村町の大庄屋を務め、その後、国會議員として地域の発展に貢献した。彼のもう二つの大きな業績は電気軌道敷設を計画し、成功したことである。

九代目浅見与右衛門は幕末から明治にかけて岩村町の大庄屋を務め、その後、国會議員として地域の発展に貢献した。彼のもう二つの大きな業績は電気軌道敷設を計画し、成功したことである。

が流されたり、工事請負人が逃亡するなどいくつかの思わぬ困難に直面した。

（約十二キロ）に電車を引くことを決意し、明治三十六年、岩村電気軌道株式会社を設立した。しかし、工事の難事業を危ぶむ者も多く、六月に工事に着手したもの資金を集めることに苦しんだ。その上、翌三十七年には日露戦争が始発したり、水害により工事個所

がB級グルメとして普及に努めているハヤシライス「ハヤシの恵ちゃん」を知っていますか。市内のレストランや寿司屋さんで手軽に注文でき、手頃な値段でおいしいハヤシライスが食べられます。

明治二十五年、東濃圏と中京圏を結ぶ鉄道幹線・中央線が名古屋から中津川まで開通した。これによつて、江戸時代には東濃の中心として栄えた岩村町が僻地として寂れ、取り残されることを憂えた彼は、一念発起して岩村・大井間三里

ハヤシライスの考案者

岩村町 早矢仕 有的



1837年～1901年

『皆さん、いま恵那青年会議所と一右衛門は泰然自若として工事を進め、明治三十八年十二月、ついに完成させ、翌三十九年十二月には電車の運転を開始した。また、電車の開通と同時に電燈工事を起こし、岩村、東野、長島、大井などへ電燈を供給し、六町村が文明の恩恵を受けた。

（現山県市）で生まれ、名古屋で医学を学び、安政元年、江戸に出て医院を開業した。また坪井信道、福沢諭吉から蘭学や英語を学んだ。諭吉から学んだ実学は新時代において実業家として生きようとする素地を育てた。諭吉の指導により横浜に洋書や輸入品販売を目的とする日本で初めての株式会社である丸屋商社（後の丸善）を創業した。

ある日、友人が有的を訪問すると、台所に有り合わせの牛肉のコマ切れと野菜のごった煮を、皿に盛った飯にかけて、もてなしたといふのでしようか。それは江戸時代岩村藩のお抱え医師で後に実業家として活躍した早矢仕有的が考案したものと言われるからである。

全国地歌舞伎普及の功労者

山岡町 六代目 松本 団升



1922年～2007年

子供歌舞伎にも尽力し、各保存会で現在も子どもたちが熱心に取り組んでいる。

平成七年、山岡町名譽町民となり、平成九年には岐阜県重要無形文化財に指定され、平成十九年、旭日双光章に輝やいた。

現在、団升の後を二代目松本團女

三歳で先代松本団升一座の子役として初舞台を踏む。以後、役者

として全国を巡業して回る。戦後復員し、団升の在所である山岡町（旧遠山村久保原）青年団の依頼で歌舞伎の振り付け指導を始めた。その振り付けの評判が高まり、

恵南、東濃二円から飛驒、愛知県、長野県にまで広がつていった。

振付芸題は古典、新作など途絶えかけた芸題も含め三百余を復活させ、毎年新しい地歌舞伎の披露を行つた。

北海道開拓の先駆者

山岡町 梅村 庄次郎



1863年～1943年

この集合体の村には寺院がないので、昭和のはじめ、関東鶴見の曹洞宗総持寺から分寺した耕養寺を建立した。それらの功績は大きく、豊富町は庄次郎を町の創始者とし、昭和十六年、時の議長他有志により、梅村庄次郎開拓記念碑を建立した。

梅村の里なればこそ
のどかなれ

音吉の杜に驚ぞ鳴く

(音吉とは一緒に働いたアイヌの人)

三代目は婿養子で孫娘との間に

子供がいなかつたため、故郷の実家（梅村一男宅）の近くから養女をも

らい四代目とした。

平成十四年、豊富町開拓百年記

念祭が盛大に執り行われた。山岡町の梅村本家の親子も招待され共に祝つた。

団升の歌舞伎への情熱はこれからも人々の心に受け継がれていく

ことであろう。

総代に選ばれ公事に尽力した。

明智町 三宅 正一



1900年～1982年

から、市民の共感と信頼を得た。

昭和七年、長岡市議会議員に当選。昭和十二年、三十六歳で社会大衆党から衆議院議員に初当選。昭和五十一年には長年の功績が認められ「衆議院副議長」に任命され、国会運営に尽力した。七十九歳まで誰にでも好かれる人柄、巧みな弁舌によつて多くの市民から信頼を得、十六回の当選を重ねた。この後、大正十二年以後新潟県に定住し農民運動を指導した。

静波村（現明智町）三宅弁次郎の次男に生まれ、早稲田大学卒業後、大正十二年以後新潟県に定住し農民運動を指導した。

木崎村の小作料減免争議には先頭に立つて指導し、小作料不納同盟の結成、無産農民学校の設立、村政改革などで地主と対抗した。昭和二年、王番田争議では農民に逮捕者が出て、獄中への差し入れや彼らの家族支援などを行つた。

共に貧困な生活の中での農民運動の実績や彼の人柄、心の触れあい

明智町 橋本 幸八郎



1851年～1930年

土岐郡柿野から橋本家へ養子入りした幸八郎は、明治七年、明知村副戸長となる。それ以後、私立明知病院を設立し、僻地でも西洋医術の治療が受けられるようにした。続いて私立衛生会を作り、会長となつた。また、発電所から生じる利益も町財政を潤すことになった。

そのほか隔離病舎、施設の充実化、戦前、戦中には演説中に官憲に拘束されることが百回もあり、昭和二十一年の選挙では、翼賛政治に反対したため政府の弾圧によって立候補できなかつた。しかし、これらに屈せず、常に農民などの弱者らの地位向上を目指し、民主主義と平和を願つて国会で活躍した。

昭和五十七年には、明智町の名譽町民を受けている。

1851年～1930年

明治三十八年、初代明知町長になり、町有林の個人分割騒動を説得、解決した。町が町有林の維持運営に当たり、生じた利益で岐阜県初の「町営水力発電所」を建設し、工費二万七千円全てを町費でまかない、町民の生活、労働に変革をもたらした。また、発電所から生じる利益も町財政を潤すことになつた。

そのほか隔離病舎、施設の充実化した学校建設、児童増加に対する準備金の積み立て、幻となつたが山海鉄道開設構想で「開道講」の設立などに奔走した。

また中央線瑞浪駅設置に尽力するなど、地域の発展に貢献し、経済面では、養父が創立した金融、生糸を扱う濃明会社を濃明銀行とし、地域の金融に貢献した。

地方に課題が多い現在、幸八郎の業績に学ぶことは多い。